

今月のテーマ 病院や高齢者施設でのお困りごとを「超音波・赤外線センサー」で解決！

転倒・転落対策に欠かせないものになった離床センサーですが、導入台数や機種について課題を抱える病院・施設も少なくないのではないのでしょうか。今月は、超音波・赤外線センサーを使い、現場の悩みを解決した例をご紹介します。

■ 超音波・赤外線センサーについて

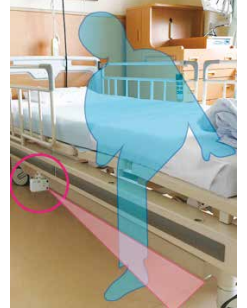
2つのセンサー①超音波センサー（物体を検知）、②赤外線センサー（熱を検知）が検出範囲に入った人を検知し、お知らせします。小型で邪魔にならない、患者に気づかれにくいといった特長があります。また、3種類の取付け具で、場所を選ばず設置ができます！

超音波センサー
→物体を検知

赤外線センサー
→熱を検知



超音波・赤外線センサー



■ 超音波・赤外線コールを導入し、悩みを改善した2例をご紹介します！



コールマットや他センサーで対応できない患者に「超音波・赤外線センサー」！

B 病院 (394 床)

【導入数：62 台 導入率：15%】

使用しているセンサー

コールマット、ベッドコール



コールマット



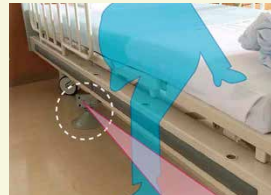
ベッドコール

悩み

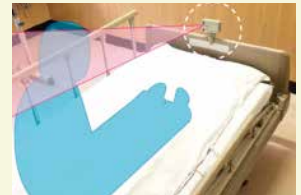
コールマットや、ベッドコールでは、対応できない患者がいる。
マットに気づきマットをまたいだり、寝ている時の体動が激しく誤報が多いのでベッドセンサーでは正確にキャッチできない。

導入センサー

超音波・赤外線コール



立ち上がりを検知



起き上がりを検知

改善点

今までのセンサーに適合しない患者に効果的に使用できた。超音波・赤外線コールは、設置場所を自由に変えられるので、患者の状態に合わせセンサーを取付けられるのが良い。



病棟スタッフが患者の状態を考えて、行動できるようになり安全意識が高まった。



センサー故障を減らしたい！

A 施設 (100 床)

【導入数：16 台 導入率：16%】

使用しているセンサー

コールマット、ベッドコール
サイドコール



コールマット



ベッドコール



サイドコール

悩み

ケーブルタイプのセンサーを使っていくうちに、断線故障が増えてきた。修理代もかさむが、何より、修理期間中に離床センサーが使えなくなると、スタッフに負担がかかる。
修理頻度が低減できる製品の切替を検討中。



導入センサー

超音波・赤外線コール



ベッド下に設置、ベッドから足を下ろし立ち上がる動きをキャッチ



フットボードに設置、ベッドサイドに近寄る動きをキャッチ

改善点

コードレスで使えるので、車いすの患者にも使えるようになった上、断線の心配なくうまく使えている。

今の所故障はないので、増設を予定している。